



# 確かな学力の向上をめざして【11月】

## ■ 幼児教育と小・中学校教育の学びをつなぐ

学習指導要領には、「育成すべき資質・能力」について、幼児教育から高等学校まで見通しを持って系統的に示されています。幼児教育では、遊びを通して、自ら課題を見つける、選択する、探究的な活動をするを大切にしながら、「主体的な遊び」が展開できるよう工夫して保育しています。小・中学校における主体的な学びの実現に向けて大切にしたい工夫が、幼児教育でも実践されています。

たけのこの不思議！

幼児教育

蜘蛛の巣づくり



何枚服を着ているのか、一枚ずつはがして並べてみました。疑問に感じたことを粘り強く自分の方で確かめました。



園で見つけた蜘蛛の巣を作ってみようとなった子どもたち。いろいろな素材を使って、共同作業する中で、複雑に絡み合わせることに気づきました。

小・中学校

例) 自ら問いを見出し、調べてみたい、みんなで考えてみたい課題や教材を提示する

とっどりの授業改革【10の視点】①

幼児教育では、子どもが不思議だなと思うことに出合える環境構成や、受容的な関わり方を大切にしています。小・中学校の指導においても、ヒントになることがたくさんあります。幼児期の学びを小・中学校の学びにつなげていきましょう。

## 校区の「教育をつなぐ」ために～幼保小接続アドバイザーの活用～

昨年度から配置している「幼保小接続アドバイザー」の活用について、琴浦町での取組を紹介します。

～7月里帰り交流会（1年生が出身園へ行って年長児と交流する会）計画、合同研修会～

4 ねらい

年長児	1年生
<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生と会話をしながら夏の遊びを一緒に楽しむ。</li> <li>1年生と一緒に遊びに必要なものを作って遊び、自分が作った物思い通りに遊ぶ満足感や達成感を味わう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校で高学年に関わってもらった経験から、年長児に楽しい言葉をかけたり、相手の立場に立って関わったりする。</li> <li>出し物を通して成長した姿を披露したり、小学校の楽しさを伝えたりする。</li> </ul>

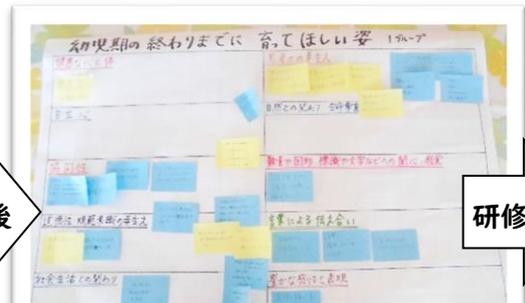
5 評価

- 年長児) O久しぶりに会えたことを喜び、会話をしたり進んで関わったり遊んでいる。  
O1年生と一緒に工夫したり試したりしながら、自分がイメージした物を使って繰り返し遊んでいる。
- 1年生) O年長児の様子を見ながら困っていることに気づき、気持ちや考えを聞きながら、一緒に遊んで楽しむ。  
O大きな声で出し物の発表をし、年長児に見えもらって喜びを感じている。

6 活動の流れ

時間	活動	年長児に対する配慮・支援等	1年生に対する配慮・支援等
9:30	O遊戯室に集合 Oはじめの会	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生が来園することの怖しさに共感しながら、招待状を送った1年生を出迎え、遊戯室と一緒に集まれるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表に対する緊張や不安がある子どもには、安心して参加できるように言葉かけをして励ます。</li> </ul>

交流後



研修後

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共通の視点に話し合い

5年生との交流計画でも活用

### 立案時にアドバイザーからのアドバイス

1年生への配慮を追加しては？



小学校の先生にコーナー・司会の担当を！

学校や園の全職員がカリキュラムの考え方やねらいを理解し、協力することができれば、もっと円滑に接続できますね！校内での共有も進めていきましょう。



「鳥取県幼保小接続ハンドブック～育ちと学びをつなぐ～（平成30年3月）」→